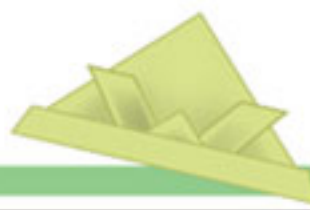


札幌皮膚病理研究所ニュース

2007年5月号



●安齋先生送別会 のようす 於 すし乃ふじ田

副所長として活躍した安齋先生が3月末で退職、4月から徳島大学皮膚科の准教授として赴任されました。



花束贈呈。これまで有り難うございます！



少ししみみりした後は、笑顔でお送りします。これからお元気です！

●研修医のご紹介



福岡大学皮膚科 古賀佳織先生 (左)
北海道大学皮膚科 秦洋郎先生 (右)
とても熱心なお二人です。

秦洋郎先生が研修日記を寄せてくださいました。

この4月から大学院に進学し、研究の一環として病理学を修めるべく、木村鉄宣先生の主宰される札幌皮膚病研究所に御世話になっています。これまでもそうでしたが、私自身がポケットとしているのになぜかお師匠様に恵まれるのは不思議としかいいようがありません。

このお話を頂戴したときに本人よりも周囲が不安がり、「2週間くらいでダウンするでしょ」とか「向いていないでしょ(笑)」などと激励の言葉を多数頂きました。しかしながら研究所での生活はまさに楽しい一言に尽きます。多いときには一日に150~200枚の標本を木村先生の丁寧な指導の下で検討していくなかで、今まで、あやふやにしていた事柄が頭の中ですっきり整理されたり、カンファレンスでなんとなく聞いたことのある用語がずいぶん分かるよ

うになりました。多数の典型例を見ていくのも勉強になりますし、判断が難しい症例では成書や文献にあたりたり専門家の意見を仰いだり、さながら症例検討会を毎日やっているような情報量です。何といても臨床診断と病理診断の乖離を埋め合わせる作業の過程で臨床の病名を多く復習する機会に恵まれることが最大のメリットです。

また福岡大学から2年間の予定でいらっしゃる古賀佳織先生は皮膚科医としても病理学の分野でも既に大先輩であり、私の学生のような基本的な質問にも教科書や文献の記載を交えながら真剣に答えてくださいます。

研究所の1年で北大のおよそ20年分の標本を見ることとなります。1年後が楽しみです。

◆研究業績

2007.4.20-22. 第106回日本皮膚科学会総会 ポスター発表

「病理組織学的検討に基づいた、Unna型色素細胞性母斑の形成機序に関する研究」

曾和順子、小林裕美、石井正光、木村鉄宣

「最近経験した鼻周囲の比較的稀な皮膚皮下腫瘍4例」

太田正佳、都甲武史、木村鉄宣

「最近経験した皮膚混合性腫瘍の6例」

都甲武史、太田正佳、木村鉄宣、和田康夫、鈴木茂彦

「Pigmented Spitz's nevus との鑑別を要した malignant melanoma」

相川美和、武藤律子、阿部郁子、落合豊子、木村鉄宣

「巨大なclear cell hidradenomaの一例」

山田勝裕、山川岳洋、長門昌代、野口奈津子、長門一、輪湖雅彦、梅林芳弘、真鍋求、吉成力、安齋眞一

今後のスケジュール



セミナー

- 2007.4.29(日)-30(祝)
第5回皮膚病理講座基礎編 東京会場
会場：日本医科大学千駄木キャンパス

- 2007.6.30(土)-7.1(日)
第3回近畿ダーモスコピー研究会
会場：近畿大学奈良病院 (予定)

セミナー

- 2007.7.15(日)-16(祝)
第6回皮膚病理講座基礎編 大阪会場
会場：大阪市立大学阿倍野キャンパス

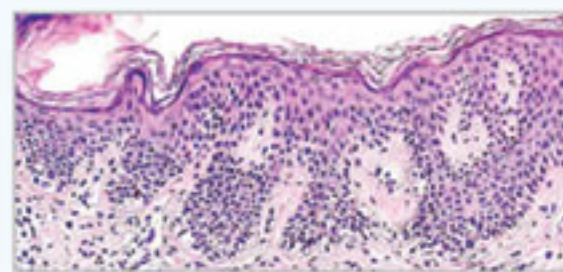
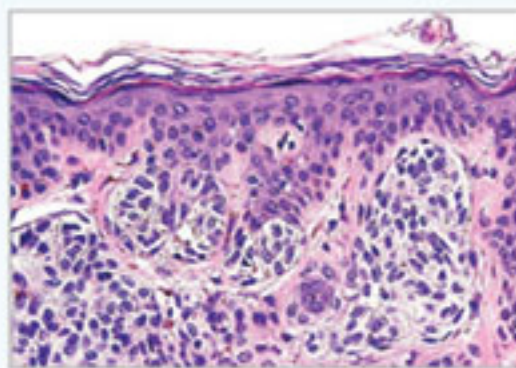
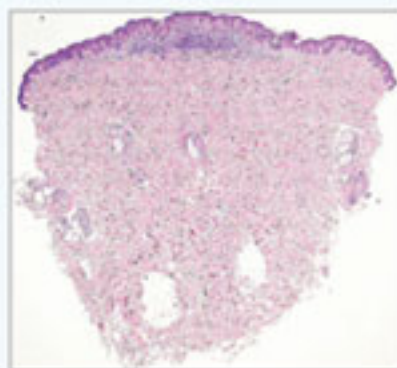
- 2007.7.21(土)
第9回京滋難治性皮膚疾患研究会
会場：京都

- 2007.7.28(土)
第23回日本皮膚病理組織学会
会場：東京都港区 石垣記念ホール

- 2007.9.22(土)-23(日)
第71回日本皮膚科学会東部支部学術大会
会場：ロイトン札幌

今月の症例

12歳女性 生検部位：背部 臨床診断：「nevus of back」
病理組織診断：Nevus spilus (congenital speckled lentiginous nevus)



病変を構成する細胞は色素細胞様細胞で、真皮表皮境界部では胞巣を形成している。

病変の辺縁には真皮表皮境界部だけに腫瘍細胞の増殖があり、この部分が肉眼的には淡褐色の斑に見える。



真皮上層に好塩基性に染色される細胞が帯状に集簇し、隆起性病変を形成している。中央部で複合型、辺縁では境界型になっている。

セミナーのご案内

第6回 皮膚病理講座基礎編 (開催地：大阪)

- 皮膚病理に必要な基礎知識（正常組織、臨床・病理用語）と、各種皮膚疾患の病理組織像を「あたらしい皮膚科学」（清水宏著）に準拠して解説します。
- このセミナーを機会に、「あたらしい皮膚科学」を完全に理解し、把握することをめざします。

受講対象者

- 皮膚科・病理専門医試験受験者
- 皮膚科・病理研修医および専門医
- 皮膚科臨床医

専門医試験前に知識の整理をしたい方に最適です。
「皮膚病理が苦手」「興味があるがどう勉強していいかわからない」「皮膚病理の指導法を知りたい」という皮膚科医と病理医の皆様にも役に立ちます。

- 第6回皮膚病理講座基礎編 大阪会場
2007.7.15(日)-16(祝)
会場：大阪市立大学医学部
阿倍野キャンパス大講義室
後援：大阪市立大学医学部皮膚科
受講料：32,000円

「あたらしい皮膚科学」販売

「あたらしい皮膚科学」をセミナー参加者に販売します。
参加申込の際にぜひお問い合わせください。
(当日会場での販売はいたしませんのでご注意ください)

開催日1か月前までにお申込された場合、早期申込料金28,800円となります

皮膚病理診断学入門

- 各種皮膚疾患の病理組織像を理解します。
- 皮膚病理診断学の3要素、診断基準項目、診断のてがかり、そして鑑別診断を具体的に把握します。
 - 皮膚病理診断の方法「パターン分類とアルゴリズム解析」を理解します。

- 皮膚病理診断学入門
2007.9.16(日)-17(祝)
会場：東京都新宿区信濃町35番地 慶應大学医学部 東校舎講堂
共催：慶應大学医学部
受講料：32,000円

8/15までにお申込された場合、早期申込料金28,800円となります

新着情報はホームページ (www.sapporo-dermpath.com) で随時紹介されます。

札幌皮膚病理研究所

〒001-0018 札幌市北区北18条西3丁目2-21 TEL: 011-756-4810 FAX: 011-756-4842
e-mail: office@sapporo-dermpath.com website: <http://www.sapporo-dermpath.com>

編集担当：佐藤 尚子